

(4) 新たなノリ色落ち対策技術開発事業

予算

農林水産省：海面養殖業振興対策費のうち新たなノリ色落ち対策技術開発事業

結果の概要

東部瀬戸内海各県・大学と連携して、陸域や外海からの栄養塩の流入量および底泥からの溶出量の季節・経年変化を把握し、海域での窒素やリンの形態変化を把握することで、東部瀬戸内海のノリ漁場を中心とした海域における栄養塩の動態を明らかにすることが目的である。

事業最終年度である平成 26 年度は、大阪湾における形態別（粒状態、溶存有機態、溶存無機態）窒素・リンやケイ酸、クロロフィル a 等の季節変化に関するデータを蓄積するとともに、大阪環農水研、兵庫県、岡山県、香川県、徳島県、大阪工業大学が大阪湾、播磨灘、備讃瀬戸、燧灘、紀伊水道で行った平成 25 年度の調査結果を取りまとめた。また、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が本事業の調査結果等を用いて低次生態系シミュレーションモデルによる解析を行い、瀬戸内海東部海域におけるノリ漁期中の無機態窒素に関する収支を試算した。これらの結果は平成 26 年度海面養殖業振興対策費のうち新たなノリ色落ち対策技術開発のうち「沿岸海域の栄養塩管理技術の開発委託事業」成果報告書としてとりまとめた。

担当者

中嶋昌紀、佐野雅基、山本圭吾、秋山 諭